

教育再生会議合同分科会 議事要旨

日 時：平成20年1月22日（火） 17：30～18：30

場 所：官邸大ホール

出席者：町村官房長官、大野官房副長官、山谷総理大臣補佐官、有識者13名

（野依座長）

只今より教育再生会議合同分科会を開催する。本日は最終報告に向けて成案に近いものにしてまいりたい。

○事務局より、最終報告の案を説明

（小野委員）

原案はシンプルで分かりやすいが、もう少し内容を具体的に書き、方向性を示したほうが良いと思う部分を書き込んだ。新たな内容はほとんど加えていないが、現時点で再生会議として、政府に実行して欲しいことを書いた。

加えたのは、国公私立大学を通じた大学院の共同設置や地域における学部教育の共同実施の推進についての部分と、大学・大学院改革の財政のところを、原案に比べて国民により訴えるように少し丁寧に記載した。

○陰山委員：提出資料説明

フォローアップを行う時に、提言が実行されるかどうかも重要であるが、理念が良くても、実質的に良くなったという結果が出て初めて本物と言える。結果に対する目配りが大切である。

昨年末のPISA調査結果で、学力向上に取り組み始めた2003年よりも成績が落ち込んでおり、ショックを受けた。国際的な人材の流動化は、教育のグローバル化を要求するものであり、アジア主要国よりも落ち込んでいるという結果は、日本の人材の質が落ち込んできているとのメッセージの発信になる危険性がある。特に科学や数学など、従来日本が得意としてきた分野が落ち込んできており、2009年のPISA調査で、これらの結果を上げることは至上命題であるにも関わらず、学力低下についての論調が弱い事も気がかりである。

成果は短期間で上げる事が大切である。中学校では、毎週のように時間割を変更するなど、年間の授業時数の調整などに手一杯で、学力向上に取り組む余裕がなかった。不登校、校内暴力、いじめも中学校段階で起こることが多い。中学校を良くすれば次の可能性が見えてくるのではないか。

山陽小野田市のある中学校で、2ヶ月間、一日20分の読み書き計算に取り組み、短期間で成果を上げた。効果があるものから、どんどん現場に適用すべきであり、10年の学習指導要領改定サイクルそのものも、もっと迅速化するよう改める必要がある。中国では、お金や手間暇をかけてドラスティブな改革を進めている。日本も従来のようなやり方が果たして通用するかを考え直す必要がある。

個人の取り組みには限界がある。日本の教育学部そのものにしっかりしていただきたい。各都道府県にある国公立の教員養成課程を持つ大学が、その県の教育に責任を持つなどして、しっかり実績を挙げていただきたい。

可能であれば教育再生国民会議のようなものを実現してほしい。現場まで、情報がなかなか正しく伝わらない。情報を共有する場の設定をお願いしたい。

(野依座長)

高等教育の国際競争力の喪失を大変憂いている。この問題を国民が共有することが必要で、親が、我が子の成績にしか関心がない状況は憂慮すべきである。

(浅利委員)

より具体的に中身を書き込んだ方が良い。特に、「心身ともに健やかな徳のある人間形成」の部分は小野委員の提案を活かして欲しい。

(野依座長)

芸術、文化を担う若者の国際競争力はどうか。

(浅利委員)

俳優募集も国際化しており、海外から応募して来る人材のレベルは非常に高い。日本の音楽教育の基本では、喉から上の響きばかりが重視されている。そのために世界で活躍する日本人のオペラ歌手はほとんどいない。これは、音楽教育の当初からのひずみに起因する。他方で韓国ではオーソドックスな発声教育がなされており、韓国人の俳優が私のところでも非常に活躍している。

本当は芸術教育にも点検すべき課題はあるが、それよりも焦眉の教育課題がたくさんある、特に道徳教育がそうである。国際的な教育環境は日本よりも周辺諸国のほうが熱く盛り上がっている点は、芸術教育も同様である。

(品川委員)

最終報告なので、簡潔な方が分かりやすく良いのではないかと。大事なことは、これまで出してきた報告書をどう実行し、どう保障していくのか、その装置を誰がどう作るのか明記することだ。そのためにも会議が最終的に目指すところ、何をどうするためにどこをどうやっていくと考えたのか、そのために何が必要と考えているかなどがメディアに一発で伝わる見せ方が必要。細かく書いてしまうと、かえって一部だけが取り上げられ、また誤解を生む土壌を作ってしまう。興味を持った人にはこれまでの報告書を見てもらえばよい。

「子供や若者たち」とある部分に、「全ての」と明記いただきたい。学校不適応を起こした子供たちも、外国籍の子供たちも、法律の狭間に落ちてしまった子供なども含まれ、日本に住む全ての子供と若者が対象であることがわかるようにして欲しい。

「学力向上」の後に、「心身ともに健やかな徳のある人間形成」の項目があるが、日本の子供・若者たちは自尊感情が低いとの調査結果がある。自分の価値が低いと思っている子供に、いくら学力向上や規範意識向上といっても効果

はあがらない。学力向上のベースには基礎体力の向上がある。体力がつきボディイメージが上がったり、集中力が上がったりすることなどが自尊感情をあげ、心身ともに健やかにし、それらがあらゆる学びの土台になる。「心身ともに健やかな徳のある人間形成」を「学力の向上」よりも前に書いた方が良いのではないか。

(浅利委員)

「徳のある人間形成」を「学力向上」の前にすることに大賛成。

(品川委員)

「ゆとり教育」を見直し、社会で自立して生きる基礎を各段階で徹底する、という部分は、「自立」だけにとどめずに「自立し、日本社会に参加する」ことまで書いていただきたい。自立できても社会に参加せず、市民として生きることができなければ国民としての義務を果たすことにならない。

提言の実行性の担保は、可能であればもう少し具体的に記述できるとよい。これまでも各省庁での政策は実施後のチェック、分析、フィードバックがあまりなされていない。再生会議の提言も、チェック、分析検証、フィードバックまで行うことが大切である。

(中嶋委員)

「英語教育の抜本的改革」は、長い間の懸案事項なので、このように具体性をもって書く事が重要である。「ゆとり教育」で今の日本の中学校英語のボキャブラリーはベースワードが100語、派生語を含めても500語程度になっている。改善される学習指導要領では、中学校で2000ワード程度であるが、国際社会の中の日本と考えた時に、8000ワード程度のボキャブラリーがないと、例えばCNNなどを聞いても内容が分からない。そういう発想からの英語教育は日本では全くなされていない。今後のためにも、英語教育の抜本的改革は必要である。

徳育の重要性については、委員全員が一致している。「最近の社会状況を考えても、徳育が学校教育には不可欠である」ということを「はじめに」の中に盛り込んでどうか。

国民がこれまでの報告書を読み直す機会はなかなかないと思うので、最終報告には、ある程度の具体性をいれたパンチの利いたまとめの方が良い。

(葛西委員)

これまで第1次から第3次まで答申を出してきたので、最終報告はいかに実効性を担保するか、そのための有効な仕組みをいかにつくるかについて提言すれば良いのではないか。

付け加えるならば、陰山委員の提案のように、具体的・明確な目標を持たせるべきであり、その一番の基礎となるのは「基礎教育における学力」である。

実効性の担保を強調するために、担保すべき実効性の具体例として、陰山委員の資料にある「実証主義と現場主義に基づいた改革」や「指導要領改定と教科書検定の随時実施」という内容をいれてはどうか。

(張委員)

チェックリストのようなものを作り、定期的に誰かがチェックするような体制を作ってはどうか。

(町村官房長官)

張委員が言われたように、きちんとした組織というか形をつくり、チェックリストを作り、どこまでいったかをフォローしていく事は大切だと、それぞれの委員のお話を聞いて考えたところである。しっかりと受けとめたい。

(野依座長)

内閣のリーダーシップで、提言実現の仕組みを作っていたいただけると有難い。

(小谷委員)

学力だけではなく、先ず健やかな心を育むことが大切だと考えて、再生会議に参加している。「心身ともに健やかな徳のある人間形成」を、「学力向上」の前におくなど、アピールの工夫をしていただきたい。

日本人には、もともとやさしい心があり、親、国、自分自身に誇りを持つ心が備わっていた。日本人の良いところを、もう一度取り戻そう、思い出そう、という語りかけを入れてはどうか。

学力向上、心身を健やかにするためには、20年間落ち続けている体力も大切なので、具体的に「体育を通じて身体を鍛える事で、健やかな心が宿る」と明記いただきたい。

(池田座長代理)

官房長官から心強いお言葉をいただいた。実効性担保のために、項目の一つひとつに対して、明確な目標を定めてチェックをするリストを作り、そのうえで新しい組織にバトンタッチできれば、と思う。いわゆる工程表的なものも作成できないだろうか。

(小野委員)

福田内閣として、教育再生会議の報告を受けて、さらにもう少し広がりをもつ、例えば教育改革国民会議のようなものを作り、アクションプランや工程表を作り、政府全体が実行してくれるのかをウォッチしていくというようにしていただけると有難い。

(川勝委員)

「学力向上」と「徳のある人間形成」のいずれを先にするかは座長にお任せしたい。「地域ぐるみで子供の心身の基礎を育てる」という部分の「心」を知・情・意に分け、「知的関心、感動する心、やる気、そして体育を通じて基礎体力を育てると」と記述してはどうか。

(海老名委員)

徳育が盛り込まれてとても嬉しい。地域の父兄などと先生方との交流をもっと深めていただきたい。そして、尊敬できる先生を増やしていただきたい。

親の学校教育に対する関心の低さが、社会の様々な問題につながっているのではないか。小学校からの英語教育も大切である。世界に通じるように進めていただきたい。

(宮本委員)

PDCAサイクルのD(実行)、C(チェック)が現場でどのように進められるか疑問に思っていたが、本日の議論で少し安心した。ここでの議論は子供たちのためのもので、子供たちに届ける義務があると考えている。リストアップ、目標設定に際しては、心の教育など、数値目標を設けるのが難しい項目もあるが、心の教育もおざなりにせず、必ずしも数値目標ではなく、別の形にしても、なにか見える形になるまで追いかけて行って欲しい。

(浅利委員)

新聞をみると、親を殺す子、子を殺す親、夫を殺す妻などの事件が報じられ、社会の根底のモラルに対する意識が失われている。「心身ともに健やかな徳のある人間形成」を最初に掲げ、最終報告の芯にすべきである。

(海老名委員)

「親孝行」を死語にしてしまった。これをどんどん使っていただきたい。

(陰山委員)

新組織が発足するならば、「再生」という言葉は現場の教員に評判が良くないので考慮いただきたい。ここでは、頑張っている教師を応援しようと進めてきた。日本の教育は現状の問題点から語られることが多いが、そろそろ未来志向でいくべきではないか。この意味で英語教育は象徴的である。日本の社会が、国際社会、とりわけアジア社会との交流なくしてやっていけない新しい段階を迎えつつある時に、新しい社会に必要な教育があると、教師の前向きな姿勢を導き出せるようにした方が良い。

(小谷委員)

提言のフォローアップと共に、先ほどご指摘があったような、今誰もが感じているおかしな事、社会の問題事象の原因はどこにあるかという情報もあわせて発信することで効果が高まるのではないか。

(中嶋委員)

「はじめに」にはグローバル化というような、国際的な対応の必要性を少し加えてはどうか。

(町村官房長官)

教育振興基本計画に、再生会議の提言はどのように取り入れられ、反映されるのか。

(山中副室長)

教育基本法改正を受けて、文科省で現在とりまとめを進めている段階にあり、できるだけ具体的な目標などを組み込んだ形で、今まさに検討されている。

(小野委員)

先日、文科省から再生会議の場で教育振興基本計画案の説明を受けたが、予算決定前で財政面に触れられないということもあり、抽象的な内容で、白書のようなであった。国民のみなさまに教育が良くなっていくと伝わるように、文科省にはもう少し頑張っていたきたい。

(町村官房長官)

せっかくこれから最終報告が出され、2月か3月に教育振興基本計画がまとまるなら、そこに関連がほとんどないということではおかしいのではないか。どこまで、どのように反映されるのか、文部科学省に確認したい。

(山中副室長)

最終報告案でも、文部科学省など、関連省庁には、具体的な計画をたててもらい、個々の報告について実施して欲しいと盛り込んでいる。

(陰山委員)

徳育と学力を対立関係で捉えられると困る。学校は勉強をする所なので、「やれば伸びる」事を実感させて子供に自己肯定感をもたせることから始める。その際に、土台になるのは体力である。子供たちの成長という観点から捉え、心、学力、体育の問題というように考えていただきたい。現場で、勉強よりも心が大事だと言われると対応が難しい。本当は、それらは一体のものなので、そこを文章表現で上手くフォローできないか。

(川勝委員)

学力は成績だけの観点で見られている。「心身」には、本来の学力も含まれる。心は「知・情・意」から成り、知は知的関心や知的興味、情は演劇、音楽、ダンスなどに感動する心、意は意欲である。決して道徳と学力の両者を二項対立的に捉えているのではない。

(小野委員)

学力向上で一番心配なのは、学習へのモチベーションの低さである。高めるためにも、分かりやすく魅力ある授業の工夫などで、勉強の楽しさを教えるべきである。

(小谷委員)

「感動する心を育てる」というのは分かりにくい。心が豊かであると、感動するなにかがあれば感動するものである。「感性豊かな心を育てる」などのほうが良いのではないか。

(品川委員)

担当部署が不明確な部分、行政目的別のニッチに落ち込むようなところに社会的な事件につながる課題がある。案の中でも関係府省と書かれているが、文科省だけではないと、子供や若者、家庭に関わる部局がすべて「自分たちも当事者だ」と意識していただけるような文言にすることが大切だ。

(野依座長)

行政も全省庁が横断的に関与すべきで、また、行政だけでは不十分であり、産業界も家庭も、社会総がかりで取り組むことが大切である。

(浅利委員)

電波界、出版界の協力も大切である。

(野依座長)

大体ご意見をいただき、内容的には全員に概ね賛成していただいたと思う。書きぶりについては、座長である私と池田座長代理にお任せいただき、成案にごく近いものを作成し、運営委員の方とも相談した上で、成案を総会にかけさせていただきます。

(異議なし)

(野依座長)

それでは、本日の合同分科会は閉会させていただきます。